

The 7th Asian Pacific Phycological Forum (APPF2014) に参加して

長里千香子

第7回アジア太平洋藻類学会議 (The 7th Asian Pacific Phycological Forum, APPF2014) は、2014年9月20日～24日に中華人民共和国湖北省武漢市の武漢東湖国際会議中心を会場として開催されました。この大会では、5つの基調講演、2つのミニシンポジウム（それぞれ5名の演者）が企画されており、一般口頭発表（110演題）とポスター発表（106演題）が3日間にわたり行われました。日本からは、有賀祐勝先生、白岩善博先生、川井浩史先生、神谷充伸先生、四ツ倉典滋先生、田中厚子さん、山口愛果さん、山田和正さん、そして私の9名が参加しました。具体的な数としては比較していませんが、日本からの参加者は、前回大会（2011年、韓国麗水市）より、少なかったように感じました。

大会初日の基調講演は、Arthur Grossman氏 (Carnegi Institute for Science) が比較ゲノム解析によって緑色植物ゲノムに存在し、非光合成生物ゲノムに見られない遺伝子について、緑藻クラミドモナスによる順遺伝学、逆遺伝学的アプローチから、その多くが光合成や色素体の代謝に関わっているという内容でした。3日目の基調講演では、白岩先生が“The novel biosynthetic pathway of algal biofuel candidates in marine microalgae: Approach from algal lipidomics.”というタイトルでご講演され、円石藻におけるアルケノンという脂質の合成経路に関わる研究成果を中心に発表されました。ポスターセッションは2日目と3日目に行われました。一般口頭発表に関しては私自身の諸事情により、大会を通して Algal Physiology & Cell Biology セッションが行われている会場にはりついていなくてはならず、他のセッションの口頭発表を聞くことは出来ませんでした。このセッションでは、鞭毛膜や鞭毛内タンパク輸送についての講演があり、自身の研究興味と合致する内容のものが多くありました。全体を通して、中国をはじめ各国からの、若い研究者、学生の参加が多かったという印象が残りました。そんな中、



ツアーで訪れた黄鶴楼にて

日本からは唯一の学生参加となった山田和正さん（福井県立大学）が、パルマ藻の殻形成に関わる研究について口頭発表を行いました。山田さんは、最終日の Closing Ceremony で、Oral Presentation Award を授与されましたが、この時すでに機上の人となっておりましたので、代わりに私が日本まで賞状を預かって参りました。

今大会では、3日目の夕方に懇親会、4日目の午後よりシティーツアーがありました。ツアーは、黄鶴楼と帰元禅寺を巡った後、ディナーをとりながらの揚子江でフェリークルージングをするという内容でした。バスをチャーターしてのツアーでしたが、参加者は全体で20名程でした。ツアーは中国科学院水生研究所の大学院生がガイドをしてくれたため、非常にアットホームな雰囲気、他の参加者ともすぐにうちとけることが出来ました。

第8回アジア太平洋藻類学会議はマレーシアのクアラルンプールで開催されます。マレーシア大会では、日本からも多くの方が参加し、研究者同士の交流がより一層、計られることを望んでおります。

(北海道大学)



参加者集合写真